



《会計・税務の知識》消費者物価指数の動向について

はじめに

e-Stat（日本の統計が閲覧できる政府統計ポータルサイト）で公表される消費者物価指数の動向について紹介します。

1. 消費者物価指数の推移について

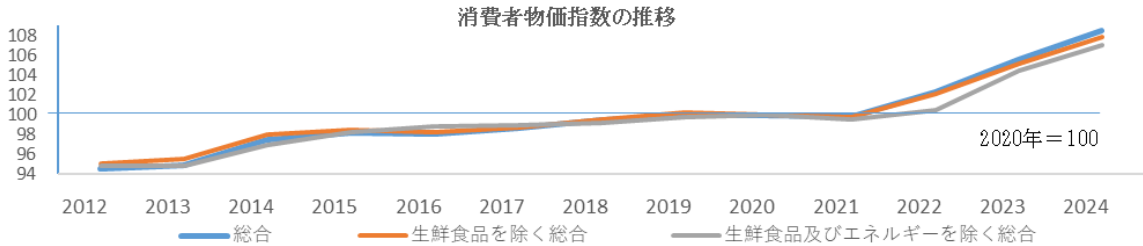
以下の表は、2020 年分を基準値（100）とした場合の、2012 年から 2024 年分にかけての消費者動向指数の推移を表したものです。指数は 2012 年から緩やかに上昇を続けており、2022 年以降は大幅な上昇が見られます。

近年の総合指数の動向をみると、以下の特徴が見られます。

2022 年はウクライナ情勢などによる原油価格や国際的な原材料価格の上昇、円安を背景に、エネルギーや生鮮食品を除く食料の価格が上昇しました。

2023 年は原材料価格や輸送費の上昇を背景とした生鮮食品を除く食料の上昇、原材料価格の上昇や需要の回復などを背景としたサービス価格も上昇しました。

2024 年は天候不順などを背景とした原材料価格の上昇を背景に、チョコレートを始めとする生鮮食品を除く食料の上昇、猛暑による 2023 年産米の品薄を契機とした需給の引き締まりや生産コストの上昇により米類の価格も上昇しました。さらに、訪日客を始めとする旅行需要の増加などによる宿泊料の上昇も見られました。



(出典：e-Stat)

2. 10 大費目の年平均指数の推移について

以下の表は、10 大費目の年平均指数の推移を表したものです。2020 年と 2024 年を比較すると、最も増加率が高い費目は「家具・家事用品」であり、18.4%の上昇が見られます。主な要因は家庭用耐久財、家事用消耗品や家事雑貨の上昇によるものです。「食料」は 2012 年以降、継続的に上昇傾向にあり、近年では猛暑や天候不良の影響を受け、2024 年には 2020 年比で 17.8%の上昇となっております。「光熱・水道」は 2023 年に実施された「電気・ガス価格激変緩和対策事業」による一時的な下落の反動で、2024 年には電気代が増加しました。「交通・通信」は 2022 年におけるスマートフォンの低料金プランの提供により、通信費が下がり、2024 年は 2020 年比で唯一の減少費目となっています。「教養娯楽」も継続的に上昇しており、訪日客の増加などによる旅行需要の高まりを背景に、宿泊費の上昇が主な要因となっています。

2020年=100

年月	総合	除) 生鮮食品	除)生鮮食品 エネルギー	食料	住居	光熱・ 水道	家具・ 家事用品	被服及び 履物	保健医療	交通・ 通信	教育	教養娯楽	諸雑費
2012	94.5	95.1	94.9	88.5	99.9	93.4	94.7	92.0	94.6	99.2	103.0	92.7	95.0
2013	94.9	95.5	94.8	88.4	99.5	97.8	92.6	92.3	94.0	100.6	103.6	91.8	96.2
2014	97.5	98.0	96.9	91.7	99.6	103.9	96.1	94.3	95.0	103.2	105.5	95.1	99.7
2015	98.2	98.5	98.2	94.6	99.6	101.2	97.6	96.4	95.8	101.2	107.3	97.0	100.7
2016	98.1	98.2	98.8	96.2	99.5	93.9	97.2	98.1	96.7	99.3	108.9	97.9	101.4
2017	98.6	98.7	98.9	96.8	99.3	96.4	96.7	98.3	97.5	99.5	109.6	98.3	101.7
2018	99.5	99.5	99.2	98.2	99.2	100.2	95.7	98.5	99.0	100.9	110.1	99.0	102.1
2019	100.0	100.2	99.8	98.7	99.4	102.5	97.7	98.9	99.7	100.2	108.4	100.6	102.1
2020	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
2021	99.8	99.8	99.5	100.0	100.6	101.3	101.7	100.4	99.6	95.0	100.0	101.6	101.1
2022	102.3	102.1	100.5	104.5	101.3	116.3	105.5	102.0	99.3	93.5	100.9	102.7	102.2
2023	105.6	105.2	104.5	112.9	102.4	108.5	113.8	105.7	101.2	95.8	102.1	107.1	103.7
2024	108.5	107.9	107.0	117.8	103.1	112.8	118.4	108.2	102.8	97.4	101.6	112.9	104.8

(出典：e-Stat)

おわりに

10 大費目のより詳細な情報、地域別や年齢階級別のデータも e-Stat に公表されておりますので、ご興味のある方は御覧ください。

(担当：高瀬)